

令和 7 年度イノシシ管理検討協議会 会議録

令和 7 年 9 月 25 日（木）開催

1 開会

2 あいさつ

3 議題

- (1) 令和 6 年度イノシシ管理対策の実施状況について（報告）
- (2) 令和 7 年度指定管理鳥獣捕獲等事業評価報告について（協議）
- (3) 令和 7 年度イノシシ管理対策について（協議）
- (4) 第 4 次イノシシ管理計画の策定について（協議）
- (5) その他

【事務局（自然保護課）】

それではお手元に配付した次第に従いまして、進行させていただきます。

続きまして、3 の議事に入ります。

議事についてですか、協議会設置要綱第 3 の第 2 項及び第 3 項の規定により、協議会には会長を置き、会長が会務を総括することとされておりますので、以降の進行につきましては、宇野会長にお願いしたいと思います。

宇野会長、よろしくお願いいたします。

【宇野会長】

それではこれから議事に入りますが、議事に入る前に事務局から当協議会の非公開部分の決定について発言を求められておりますので、事務局から説明をお願い致します。

【事務局（自然保護課）】

はい。本日は、議題(4)の部分について、情報公開条例第 7 条第 1 項第 5 号に該当する部分が含まれていることから非公開としたいと思います。

情報公開条例第 7 条第 1 項第 5 号に該当する部分ということですが、検討または協議に関する情報であって、公にすることにより、率直な意見の交換もしくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれが、含まれている場合に非公開とするものです。

【宇野会長】

事務局の提案についてお諮りします。

議題(4)については非公開とすることで決定してよろしいでしょうか。

【全ての構成員】

異議なし。

【宇野会長】

異議なしでしたので、議題(4)については非公開と決定します。

それでは議事に入ります。議題(1)令和6年度イノシシ管理対策の実施状況について、事務局から説明願います。

【事務局（自然保護課）】

（資料1により説明）

【宇野会長】

はい、ありがとうございます。

では、イノシシ管理対策の実施状況について、質問などがあればお願いします。

【堂山構成員】

いくつかお伺いしたい部分があります。

捕獲頭数が令和5年度からほとんど変わっていない中、内訳を見ると指定管理鳥獣捕獲等事業が減り有害が増えていますが何か理由はありますか。

【事務局（自然保護課）】

指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲頭数が減った原因ですが、委託先の岩手県猟友会に聞き取ったところ、積雪が少なくイノシシが麓まで降りてこなかったため、思うように捕獲できなかったとのことでした。

有害捕獲による捕獲頭数が増えた理由としては、対策が進んだものと考えています。

【堂山構成員】

有害捕獲をする人が増えたとか、有害捕獲の取り組みの詳細は分かれますか。

【事務局（農業振興課）】

詳細には把握しておりません。

【堂山構成員】

数年前から度々確認しておりますが、岩手県はくくりわなが比較的よく使われてると思うんですが、箱わなに関して、購入した箱わながうまく運用されてるのか分かりますか。

【事務局（自然保護課）】

指定管理鳥獣捕獲等事業になりますが、箱わなで何頭捕獲したかという情報は収集できているんですけども、箱わなをどのくらいの期間設置して何頭捕獲したのかという効率の部分までは集計できない報告体系になっていまして、効率の検証は現時点では難しい状況です。

【堂山構成員】

おそらく箱わな以外にも止めさしやＩＣＴ機器等、いろいろ購入されてるものが毎年あると思うので、それらがどう活用されたのかある程度分かればいいと思うのですが。

【事務局（農業振興課）】

行政からの補助で購入した箱わなや先進的機器がどのように使われているかの詳細については情報収集できていませんでした。

【堂山構成員】

他県でもそうなんですが、補助したものが実際に使われてるかどうかというのは鳥獣対策以外の分野でも問題になっているので、野生動物管理でもそういう情報を得る仕組みを構築できればいいんじゃないかなと個人的には思っております。

【宇野会長】

雫石町や一関市の方も構成員として参加されていますので、箱わなや止めさしなどの情報があればお願いします。

【瀬川構成員（雫石町）】

実際の運用状況を見ますとくくりわなが一番手軽で数が多い一方、箱わなに関しては設置状況によっては近寄ってこないこともあり数は少ない状況です。

数としてはくくりわなと鉄砲が多い状況になっています。

箱わなは扱いにくいところもあって、人気はないというのが実情です。

【堂山構成員】

いろいろ調整をしていったほうがいいと思います。

箱わなをせっかく買ったのに使われずに置いておくのはもったいないので、他のものにお金を回せるんだったら回したほうがいいかなと思います。

止めさしの機械とかは買ったりはされましたか。

【瀬川構成員（雫石町）】

止めさしについては実施隊に頼んで実施している状況です。

ただ実際にはわなの狩猟免許だけの人はほとんどおらず、その場で撃って終わるというパターンが多いです。

【堂山構成員】

被害金額について、水稻がかなり減ったんですが、これは対策をする人が増えことが要因なのか、データの取り方が変わったためなのか、いろいろあると思うんですけど何か要因は考えられますか。

【事務局（農業振興課）】

全体的には令和 5 年度から令和 6 年度にかけては、被害額が減った市町村が多いです。

それに関しては、捕獲数が増えているので積極的な捕獲活動や侵入防止柵の整備の効果が基本的にあるんだと考えています。

一方で、野菜やいも類は被害額が増えているんですけれども、沿岸地域や県北地域において、被害額が増えている市町村がある状況です。

原因としては、これまで被害が少ない地域のため、イノシシの増加や生息域拡大に対策が追いついていないことが考えられます。

【宇野会長】

午前に行われた二ホンジカ管理検討協議会では、久慈市と西和賀ではまだシカの被害はないとのことでした。

イノシシは令和 6 年度に全県で捕獲されたということですから、速いスピードで広がっているイメージがありますが何かその辺見解はありますか。

【事務局（農業振興課）】

二ホンジカについてですけれども、久慈市は令和 5 年度は被害があったものの、令和 6 年度は報告がなかった状況です。

西和賀はこれまでも被害報告はありませんでした。

一方、イノシシに関しては令和 6 年度に葛巻町から初めて農作物被害の報告がありました。

令和 6 年度に報告がなかったのは野田村、陸前高田市でしたが、それぞれ令和 5 年度の被害も数万円程度という状況でしたので、もしかすると今後、そういったこれまで生息数があまり多くなかった地域について、生息数の拡大に伴い被害額も増えてくる可能性はあるものと考えています。

【青井構成員】

二ホンジカ管理検討協議会の資料では、水稻の被害が一番多いうえに増加もしているとのことでしたが、イノシシは水稻が減ってるということで、何故なんでしょうか。

分布の中心はちょっとシカとイノシシでは違うので、それも要因の一つとしてあると思うんですけれども、同じ地域にシカもイノシシも入ってるとすれば、何故シカは増えてイノシシは減るんだろうという疑問が 1 点。

また、同じ田んぼに 2 種の動物が続けて侵入した場合、どちらの被害として算出されるのか、別々か両方に計上してるのか教えて欲しいです。

【事務局（農業振興課）】

イノシシについて、水稻の被害が減少している理由ですけれども、これについては、正直なところきちとした、検証というのはできておりません。

全般的には先ほどお話したとおり、捕獲や対策の進展によるものと思われます。

特に県北地域で被害額が令和 5 年度に増えたんですけれども、それが令和 6 年に減って

いることから、市町村へ理由を尋ねたところ、捕獲や電気柵等の対策をしてきた結果だということとか、あとは令和6年は山に比較的食べ物があって、里まであまり降りて来なかったと回答をしている市町村もございました。

ということで捕獲、それから侵入防止の対策というのを実施している市町村が被害を減らしているのかなと考えています。

それから2つ目の質問ですが、例えば同じ田んぼにシカとイノシシが出た場合に関しては、市町村毎に実際にどのように集計しているのか、こちらでは把握しかねております。

【青井構成員】

電気柵等でしっかり防除したから水稻の被害額が減ったということですがけれども、それでイノシシは減ったんでしょうけど、シカが侵入しているのは間違いのないわけです。

そうすると両方いるところで電気柵を設置する場合は、やはりどちらかに偏ったやり方ではなく両方とも防げるような段数や高さなどを市町村にアドバイスできたらいいなと思いました。

【宇野会長】

イノシシから被害を受けると農家の人は翌年は大体電気柵を設置します。

あとシカとイノシシの被害の違いですけど、イノシシは掘り返しや足が短いので稲が結構汚れてるとか、目立つ部分がありますね。

【堂山構成員】

稲が倒れていると大体はイノシシ被害にまとめられることが他県、特に西日本は多いように思います。

広島県で我々がシカとイノシシの被害の違いを調査したところ、食べられた稲穂の長さが全然違いまして、シカの場合は根元から切られるのが2割くらい、穂が半分より短いくらいで切られてるというのが8割以上になるので、実は見分けようと思ったら見分けられるんです。

ただ、被害調査でそこまで細かくやるかと言われればなかなかやれないと思いますので、情報としてだけお伝えしておきます。

【宇野会長】

他に何かあればまだ時間は少しあります。

【堂山構成員】

捕獲の実績の表を雄雌で分けてるんですが、成獣と幼獣で分けるというようなことは、特に今の段階ではしていなんでしょうか。

【事務局（自然保護課）】

作成はしてありませんが、データはあるので可能ではあります。

【堂山構成員】

幼獣の捕獲が異様に多くなってくると、逆に大人を取り逃がしてるっていうのも見えてきたりするので、その辺の情報も一緒に並列であると分析しやすいかなと思います。

【事務局（自然保護課）】

比較材料の充実ということで作成してみたいと思います。

【宇野会長】

はい。よろしいでしょうか。

時間が余りましたら再度質問も可能ですので、次の協議事項に入りたいと思います。

議題(2)令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業評価報告について、事務局から説明願います。

【事務局（自然保護課）】

(資料2により説明)

【宇野会長】

はい。ありがとうございます。

まさに5～6ページの改善点の部分で何か特にコメントあれば、それがまた次年度に生きていることだと思います。

本事業のこの指定管理鳥獣捕獲等事業では493頭で全捕獲数のうち31%で、結構大きく寄与していますが、同じ時期の狩猟は2%とちょっと減ってるというのがちょっと気になります。

私の方から質問ですが、銃猟で318頭を捕獲しているということですがこれは巻き狩りでしょうか。

【寺長根構成員】

巻き狩りです。

【宇野会長】

分かりました。

他に何か御意見があればお願いします。

【寺長根構成員】

農産物の被害が令和6年度はかなり減っていますが、これは耕作地が減って被害も減ったという考え方が妥当かなと思います。

高齢化で耕作をやめる方もかなり多いので、それで結局は被害額も少ないっていうような考え方の方がいいのかなと私は思っています。

【宇野会長】

耕作面積とかの数字は出ていると思いますが、県の方から何か回答はありますか。

【事務局（農業振興課）】

それぞれの市町村で、どこまでの耕作地を被害調査の対象として捉えてるのは分かりません。

農作物被害の調査方法は何通りかありますが、主には被害の報告を受けたりだとか、集落の方にアンケートを取るなどして実施していると聞いています。

アンケートに答える方が例えば、去年までは1町歩やってたんだけど、8反歩に減らしていたとして、減らした原因として山奥の方の田んぼや畑で鳥獣被害が多いために耕作を諦めたとか、もしかするとそういう事例もあるのかもしれませんが、そこまでの詳細については数字としては捉えられておりません。

【宇野会長】

他に何かありますか。

【堂山構成員】

捕獲数が少なかった要因として、積雪が少なかったことが原因というお話しでしたが、例年よりどれぐらい雪が少なかったんでしょうか。

令和6年度が前年度に比べてどのくらい少なかったのか、前年度比でもいいですし、ここ10年ぐらいの平均でも、肌感覚でもいいんですがありますか。

【事務局（自然保護課）】

複数のハンターの方にお話を聞いたところ、令和5年度と比べてやっぱり雪が少なく捕獲が難しかったというお話しする方多かったので、おそらくハンターさんの肌感覚としては少な目だったんだろうという感覚です。

【堂山構成員】

日本全国でそうですけど、積雪が例年少なくなっていることを考えると、だんだん雪が降らなかったから捕れませんでしたって言う話をずっと続けていくことは難しいので、雪が減ることも前提としながら、事業を考えていく必要があるのかと個人的に思います。

あと、私は他県の事業評価も関わっていますが、岩手県の場合は全県単位で広く見るっていうやり方にすると評価が非常に難しくなると思います。

実際にとある県のシカについての評価では、もっと狭い範囲を対象に、被害の多い場所に人を動員して捕獲活動とモニタリングも並行して行って、捕獲活動の前後で被害を比較しています。

その県も前はかなり広く見てたんですけど、事業評価がしづらいということで狭めていった経緯があります。

ですので岩手県も地域の選定が難しいかもしれないんですけど、今後としては全域で捕獲数や被害額を評価するよりも、もうちょっとポイントを絞ったらいんじゃないかと思っています。

【宇野会長】

岩手県の面積は非常に広いので、分割して管理や評価をする手法はシカもイノシシも考えなきゃいけないと思いますので、この部分については是非また議論したいと思います。

【事務局（自然保護課）】

構成員ご指摘の評価方法については、いきなりやるのは多分大変だと思うので、意識しながらやっていって、年々少しずつブラッシュアップしていけたらいいんじゃないかと思っています。

また、次期計画の作成にあたっても御意見をいただきながら反映できればと思います。

【宇野会長】

はい、ありがとうございます。

他に何かなければ、議事を進めたいと思います。

次に、協議事項である議題(3)令和7年度イノシシ管理対策について、事務局から説明をお願いします。

【事務局（自然保護課）】

(資料3により説明)

【宇野会長】

はい、ありがとうございます。

ただいまの説明につきまして、御意見があればお願いします。

【青井構成員】

一番最後のページの生息環境管理について、よく言われていることですが、やぶの刈払いで緩衝体を整備することと、もう1つは、誘引物を適切に管理することだと思うんですね。

例えば、栗とか柿とか、あと桑の木なんていうのも結構岩手の場合は農地のすぐ近くにも生えているので、そういったものを適切に収穫しないなら切り倒すとかということを、放任箇所の方採等を促進するだけじゃなくて、もうちょっと具体的に詳しく書いておいたほうが、読む人はこういうことをする必要があるんだと理解が深まると思います。

【事務局（自然保護課）】

そのように修正して公開したいと思います。

【宇野会長】

他に御意見はありますか。はい、よろしくお願いします。

【堂山構成員】

私も同じ意見でして、実際の文言は青井先生がおっしゃったように書いていただければいいと思います。

ただ、やるときにですね、全国でいろんなところで緩衝体の事業がやられているんですが、結局最初にバーッと刈り払っただけで、そのあとの維持管理が結構難しくてもう数年後にはただの低木林に戻ってるっていうのが多々見られます。

緩衝体の設置に関してはそのあとの、どういうふうに管理していくかっていう部分を含めて計画をしていただければと思います。

クマ対策にも絡んでくる部分ですが、その辺を市町村の方だったり住民の方たちと、実際に本当に必要なところをしっかりとやって、維持していく流れを作っていただければと思います。

放任果樹も実際には、切ったからどうなったかっていうのって意外と分からないことが多いので、イノシシに関してそれほどでもないんですが、やっぱりクマのことを考えると放任果樹に実際にどれぐらい寄りついているのかっていうのを県としてもしっかり調べてみたりして、例えば県のこここういうところの柿の木に沢山クマやイノシシが来てましたよっていうのをデータとして持っていて、それを切ったら全く来なくなりましたっていうのを、住民にも分かりやすいように蓄積していったらいいんじゃないかなとは思ってます。

クマがここ数年で一気に騒がれはじめ、放任果樹対策も全国的に話題となってるんですが、じゃあ切ったからどうなったんだとか、切る前どうだったんだっていうのもよくわからずにやってるところがたくさんありますので、岩手県ではこんなに効果が出たというのが言えるぐらいのものを持ってもいいんじゃないかなと個人的には思います。

【宇野会長】

はいありがとうございます。

私もこの部分気になったんですが、沿岸部ってシカが高密度にいるので藪がないんですが、藪がないところっていうのは、本来はイノシシの被害は少ないはずですが。

どこでイノシシの被害が多いのか確認できるマップが資料にあると、もう少し照らし合わせやすいなと思いました。

例えば、シカが高密度のところでは既にディアラインが発生しているので、そこでイノシシが出てないとか傾向が見れば、藪の刈払いが重要だと、別な地域でも言えたりもするかなと思います。

あともう1つ、クマの問題で堂山さんから話が出てましたが、沿岸の五葉山周辺では猿も少しいまして、猿対策で結構、釜石では年間140本とか、柿や栗、桑を切っているの、そういうところにクマが出なくなってるのかなど色々一緒に評価できるんじゃないのかなと今ちょっと考えていました。

藪などの刈払いによる緩衝体の評価の部分をうまく文言として入れてもらおうとですね、今後の対策でも実際に効果がある地域と同じことやればいいと思います。

【宇野会長】

どうですか猟友会さんの方ではイノシシの管理について、シカはこうだけどイノシシはこうだとか何かありますか。

巻き狩りでは多少捕獲してるということですけど結構な人を入れなきゃいけないでしょうし、宮城県だと犬猟とかもやっていますけれども、岩手県ではしてないので、高齢化だとやはり雪が少ない方が巻き狩りしやすいんじゃないかとか思ったりしますが、その辺についてコメントいただければと思います。

【寺長根構成員】

先ほど雪について質問がありましたけれども、令和6年度は前年度に比べ雪が少ない。

沢には降ったものは溶けないで残っていたりするんですけども、上の方の日の当たるところはすぐ溶けちゃうんですね。

そこで、去年は下がってこなくても上の方で生息できる状況があって、元気な人は上の方で巻き狩りして結構捕れてるんですが、沢とかそういうところだけの人はなかなか成果が上がらないというような状況でした。

【宇野会長】

他には特に御意見ないようですので、議題(3)令和7年度イノシシ管理対策についてはちょっとした文言の修正はありますが事務局案のとおりとしてよろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

ここで次の協議事項である議題(4)第4次イノシシ管理計画の策定に移りますが、以降は非開示の内容を含みますので、傍聴者はご退席願います。

それでは事務局から御説明をお願いします。

【事務局（自然保護課）】

(資料4により説明、質疑等が行われる。)

【宇野会長】

最後に(5)その他について、構成員又は事務局から何かありますか。

【事務局（自然保護課）】

事務局からは特にございません。

【堂山構成員】

次期計画とか全く関係ないんですけど、多分岩手県内は電気柵がイノシシ関連も多いと思うんですけど、南の地域の雪が少ないようなところで、物理的な柵を入れるっていう事例は出てきていますか。

【事務局（農業振興課）】

岩手県においては今我々で把握しているのは、鳥獣交付金で整備する侵入防止柵です。そのうち9割以上は電気柵が導入されていて、それ以外だと金網柵とかが一部の地域で入っています。

やはりですね雪があるということで通常のワイヤーメッシュ柵っていうのはなかなか入れづらいと認識しています。

一方で最近話題になったのが平泉の毛越寺で、イノシシの被害が文化財におよんでいるということに対応して、ワイヤーメッシュ柵を整備したというのは新聞報道ではありました。

【堂山構成員】

その辺がどう推移していくのかっていうのも岩手県でのイノシシ管理は、その部分が関係してくるかなとは思います。

多分、メンテナンスの仕方とかも随分変わってきますし、あとはイノシシ用に張った後にシカが出てきたらシカ用に、電気柵をプラスしたり、高さを少し上げたりという方法もとれるので、雪の心配が少ないようなところは導入するのも1つありかなあとは僕は思っています。

電気柵だけだとどうしても管理の面が非常に、メンテナンスが日常的なものが大変になるので、場所によっては、その辺もありかなあというのは個人的に思ってます。

その辺がどれぐらい、交付金のあれで、導入が変わってくるのかなっていうのもちょっと、毎年多分、私も聞くかもしれませんが、少し気になるころではあるかなと。

【宇野会長】

あともう1点だけちょっとまた別件ですが、豚熱関係の動向とかあれば、堂山構成員からコメントいただけますか。

【堂山構成員】

実際に県内の、例えばワクチン散布とかっていうのも状況的にはそんなに変わらずなんでしたっけ。

【事務局（自然保護課）】

そんなに増減はなく、これまでどおり継続してやってると聞いています。

【堂山構成員】

もともとところで例えば養豚場の周りのワクチン散布の回数とか量を増やすとかっていう計画にはなってるんでしたっけ。

【事務局（自然保護課）】

すいませんちょっとすぐに答えられないで申し訳ないです。

【堂山構成員】

なんか豚熱も結局ずっと毎年続いているので、そろそろこのワクチン散布も何かやり方とかを見直すの必要なのかなというところがあります。

全域に広い範囲をやっても、ただ大変なことがずっと続くだけなので、ある程度こう絞ったりしながらっていうふうに計画を少しずつ見直しながら、できるだけ負担なくかつ効果的なやり方でやっていただければなと個人的には思っております。

【宇野会長】

はい、ありがとうございます。

他になれば、これをもちまして議事を終了いたします。議事の円滑な進行にご協力いただきありがとうございました。

それでは事務局に進行をお返しします。

【事務局（自然保護課）】

宇野会長、議事進行ありがとうございました。

本日は、長時間に渡って御協議いただき、ありがとうございました。

これをもちまして「令和7年度イノシシ管理検討協議会」を終了いたします。

4 閉会